

No. 2499



# 教育ルネサンス

## 学級づくり 2

### オンラインで討論や自己紹介

「3密」を避けながらクラスを一つにするには、オンラインでの取り組みも有効だ。「みんなはどんな5年生になりたいですか?」

4月27日、熊本市立帯山西小学校5年1組の学級会。担任の佐々木教諭(25)はウェブ会議システム「Zoom(ズーム)」を使い、パソコンの画面越しに39人の児童に問い

ズームを使った学級会で子供たちに問いかける佐々木教諭(4月27日) 帯山西小提供



かけた。

子供たちは自宅から、「やさしい」「頼れる」「お手本」「先生に言われる前にする」の四つのキーワードに絞って

検討。「私は『頼れる』がいいと思います。なぜならば……」などと理由を示しながら意見を発表した。

最後は多数決で「お手本」が選ばれ、学級目標に盛り込まれることに。

「お手本は他の三つの意味も含む」との意見が決め手になった。佐々木教諭は「新クラスで子供たちとの関係ができておらず不安だったが、納得がいく

結論になった」と評価する。

熊本市は小中学校でのパソコン活用に積極的だ。帯山西小では、学級づくりの土台となる「学校づくり」にもズームを利用している。

音楽委員会が6月26日に開いた今年度初の全校音楽集会は、3密回避のため、いつもの体育館ではなく、各教室をズームでつないで開催した。委員長(6年井上舞さん(11))

は「みんなでわくわくできたのではないかと振り返る。学校の完全再開から約1か月。平野修校長(58)は「安心して登校できるよう人間関係づくりを一番に考え、スムーズなスタートが切れた」と話す。

二つの教室をつないで行った学級会(6月1日) 高田中提供



オンラインによる学級づくりは手探りが続く。

横浜市立高田中学校は「まずは先生たちから」と、ウェブ会議システムを朝の教職員ミーティングで使った効果を実感してから、学級づくりに

も取り入れることにした。しかし、校内で調査したところ、約300人の生徒の21%が自宅で使える端末を持っていないことがわかった。親

の不在時に自宅で子供に端末を触らせない家庭もあった。校内に端末を10台ほど備えた「ネットルーム」を設け、登校して使ってもらおうようにした。

分散登校初日の6月1日には、3年生の3学級が3密回避のため、それぞれ2教室に分かれた生徒たちをオンラインでつなぎ、1人ずつ自己紹介した。50分2コマを使い、各自がひと言ずつ、部活や、どんなクラスにしたいかを話し、互いへの理解を深めた。

「画面越し、しかもマスクをしており、伝わるか不安だったが、生徒はすぐ順応した。あとは教員が慣れるだけだ」と、特別活動リーダーの小沢香絵教諭(45)。日本IBM出身の横田由美子校長(57)は「学校の回線容量、個人の端末の扱いなどの問題を早急に解決しながら今後に備えたい」と力を込めた。